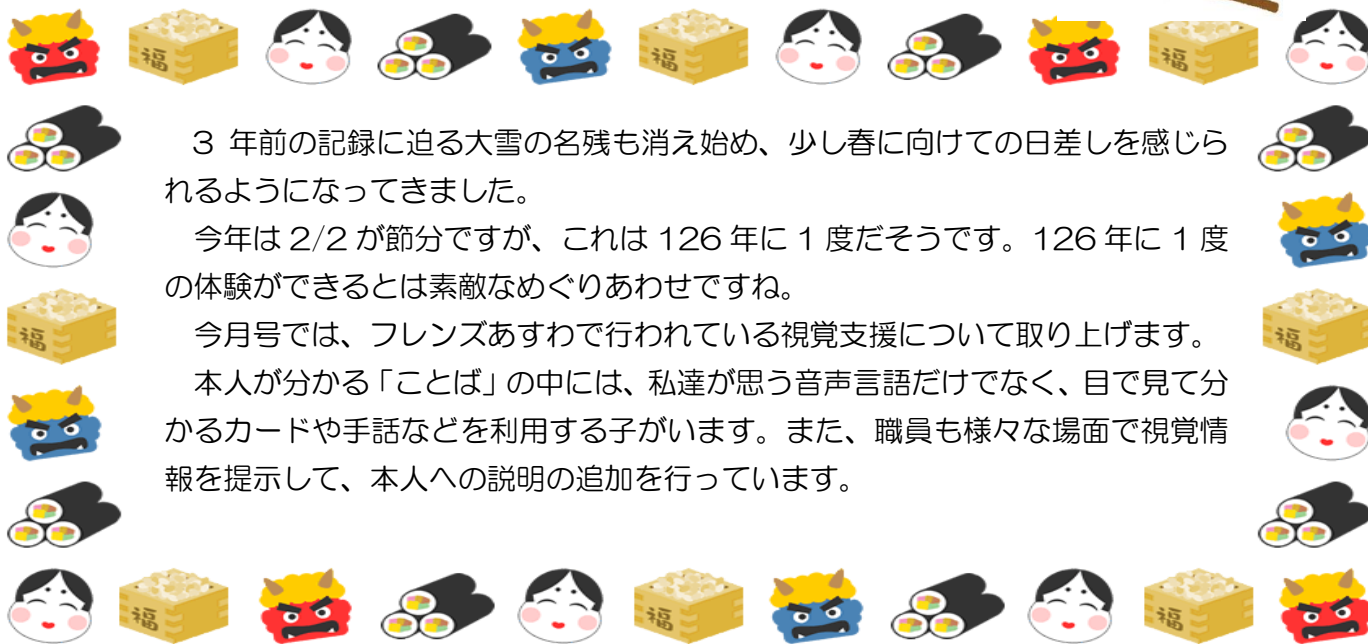


フレンズ通信 2月号



3年前の記録に迫る大雪の名残も消え始め、少し春に向けての日差しを感じられるようになってきました。

今年は2/2が節分ですが、これは126年に1度だそうです。126年に1度の体験ができるとは素敵なめぐりあわせですね。

今月号では、フレンズあすわで行われている視覚支援について取り上げます。

本人が分かる「ことば」の中には、私達が思う音声言語だけでなく、目で見分かるカードや手話などを利用する子がいます。また、職員も様々な場面で視覚情報を提示して、本人への説明の追加を行っています。

絵カード

らいおんでは欲しいおもちゃの写真が貼られたカードを職員に手渡すと、ほしいおもちゃと交換できます。その際に「〇〇ください」の言葉やジェスチャーも促しています。



大きなカードや写真で慣れてくると、自分専用の絵カードを(サイズも小さくなります)作り、お茶やデザート、その他普段から欲しい物(絵本など)を職員に個別に要求していきます。



「手伝ってカード」

困った時や助けてほしい時には「手伝ってカード」を使います。自分からヘルプを出せるように支援しています。

絵カード交換式

コミュニケーション

システム (PECS)

絵カードでコミュニケーションが出来てくると、自分専用の「ペクスブック」という物を持つ子も出て来ます。

ペクスブックを使って、「〇〇」「ください」など絵カードで2語文の文章を作って要求していきます。



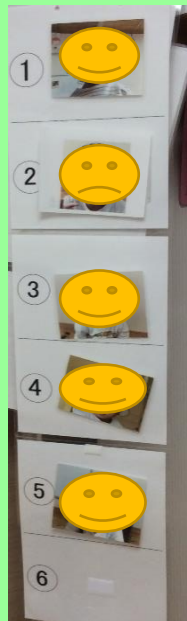
手話

聞こえにくさのある利用者様もいます。その際は手話も取り入れています。その子に対して個別に使いますが、全体の「朝の会」や「帰りの会」の時には普段から取り入れています。この写真は「おはよう」を意味します。



順番表

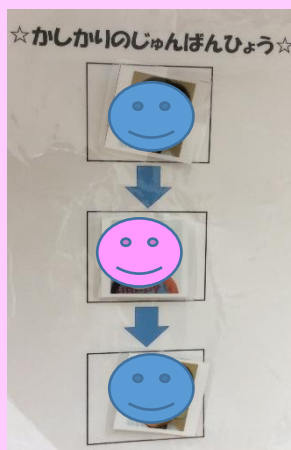
朝の挨拶や発表などでは、自分の番がいつ来るか、目で分かるように順番表を使っています。つつい前に出ておしゃべりしてしまう子ども、順番表がある事で、待つことが出来ています。



貸し借り順番表

おもちゃの貸し借りが難しい利用者様には「貸し借り順番表」を活用しています。青の子→ピンクの子→青の子とおもちゃの所有権が戻ってくる事が分かります。

おもちゃが手元から無くなると（もう戻ってこないのではないかと…）という不安も、これを見ることで、（また戻ってくる）と安心できるため、他の子に貸すことが出来るようになっていきます。



声の大きさの調整が難しい子には、目で見て声の大きさの調整が出来るように「声のものさし」をイラストで示しています。

ぞうさんの声(大きな声)はお耳が痛いから、うさぎさん(中くらいの声)で話そうね」と声かけています。

食事の準備も一目瞭然です。



2/2の節分に豆まきをしました。

センター長扮する赤鬼が登場すると、みんなびっくり！

怖がる子もいましたが、みんなで豆を投げて鬼退治が出来ました！

